

Toyo University Award for Excellent Educational Activities



・2019年度・

東洋大学優秀教育活動賞 受賞者紹介



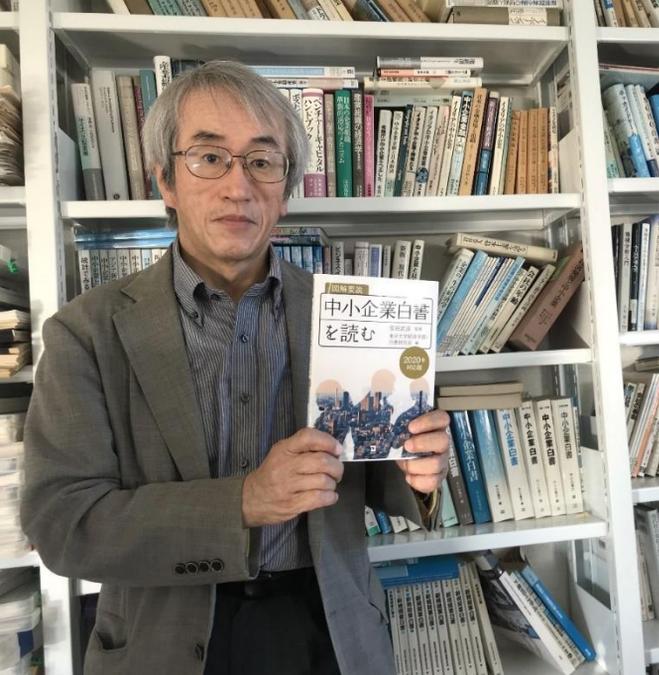


● 2019年度の教育活動に対し、7組16名の先生方が
東洋大学優秀教育活動賞を受賞されました ●



受賞者

安田 武彦 / 経済学部経済学科	「ゼミナールⅢA」"現代中小企業を様々な視点から探る"
藤井 信幸 / 経済学部国際経済学科	「ゼミナールⅡ～Ⅳ」"社会人基礎力"を育むための地域貢献活動の試み
安藤 和宏 / 法学部法律学科	「専門演習ⅠA/B」「専門演習ⅡA/B」
江口 智子 / 生命科学部生命科学科	「Integral EnglishⅠ/Ⅱ (ADVANCED b)」における文学作品を活用した主体性を促す英語教育
高橋 珠実 / 食環境科学部食環境科学科	「人体の構造と機能」
志摩 憲寿 / 国際学部国際地域学科 岡本 和彦 / 理工学部建築学科 佐野 浩祥 / 国際観光学部国際観光学科 神山 藍 / 理工学部都市環境デザイン学科 柏崎 梢 / 国際学部国際地域学科 新田 将之 / 理工学部都市環境デザイン学科 久松 佳彰 / 国際学部国際地域学科 松丸 亮 / 国際学部国際地域学科	国際地域学研修(国際学部)、観光調査実習Ⅰ・Ⅱ(国際観光学部)、海外研修Ⅰ(理工学部)一学部を横断した連携による国内外のフィールド研修プログラムの実施—
泰田 伊知朗 ポグゲンドルフ ローレンツ 市田 せつ子 / 国際観光学部国際観光学科	授業「日本語ⅡA,B」「文化遺産地域振興論」、 教育プログラム「日本人学生による留学生チューター制度」



「ゼミナールⅢA」“現代中小企業を様々な視点から探る”

経済学部 経済学科 教授 **安田 武彦**

受賞授業・教育プログラム

どうしても大企業に目線が偏りがちな学生に日本の雇用の80%生産活動の50%を支える中小企業に視点をあてることで、日本の経済構造を学ぶよう工夫されたゼミナール。2年次には実際の中小企業起業家へのヒアリングを、3年次には700ページにわたる中小企業白書の要約・出版を、4年次にはその総括としてゼミ論文・卒業論文を書くなど中小企業の今を把握し、日本の経済の全体像について自ら考察する力を養うことに努めた。



今回、2019年度のゼミの活動に対して優秀教育活動賞をいただき有難うございます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により教育環境は激的に変化しており、企業訪問と経営者へのインタビューを基盤とした私のゼミの活動の様式も大きく変化しました。しかし一方、オンラインにより地方で事業を展開している方にも接する等、新たな可能性も拓けておりますので、今後ともゼミ活動に磨きをかけていきたいと思っております。

受賞者からのコメント



「ゼミナールⅡ～Ⅳ」“社会人基礎力”を育むための地域貢献活動の試み

経済学部 国際経済学科 教授 藤井 信幸

受賞授業・教育プログラム

過疎化・高齢化に悩む農村でボランティア活動をさせながら学生に地域の課題を発見させ、解決のための具体的な提案を求めるゼミナール。全員参加の合宿でのボランティア活動や他大学とのコンペティション型のプレゼン大会のほかに、希望者には全国から多数の大学が集い成果を競う新潟県や福島県主催の地域貢献活動にも挑戦させている。それらの活動は地元紙にたびたび取り上げられ、質の高い活動報告書は国会図書館にも納本された。しかし、最大の成果は、学生たちが自らの持つ社会人基礎力の「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の成長を実感できるようになったことである。学科の方針である卒業論文にも主体的に取り組みその提出率の向上に貢献した。



このたびは栄誉ある賞を頂戴しまことに光栄に存じます。これまで陰になり日向になり活動を支えていただきました経済学部教務課、社会貢献センターの皆様にお礼申し上げますとともに、ゼミの学生諸君にもこの受賞を早速伝えなければなりません。私が用意した舞台のうえで、彼ら・彼女たちはアクターとして物語を紡ぎ、期待以上の成長をみせてくれました。彼ら・彼女たちと栄誉を分かち合いたいと思います。

受賞者からのコメント



「専門演習ⅠA/B」「専門演習ⅡA/B」

法学部 法律学科 教授 **安藤 和宏**

受賞授業・教育プログラム

知的財産法のゼミナール。特にエンターテインメント業界などに強い。学生は成績や資格要件の他、配属されても3人一組で高いレベルの判例評釈を膨大な資料を渉猟し、3か月かけてまとめ上げなければならないが、それでもゼミ配属を希望する学生が絶えない人気のゼミナールである。レジュメやパワポはゼミの特徴であるエンターテインメント性を持たせ、高度かつ平易に作成する必要があるが、学年間の共助や発表前の教員との長時間の面談による思考の鍛錬が発表によく表れている。この他にも海外の研究者を招へいするなど学部国際化や、対策講座を開くことで本学の知的財産管理技能検定2級・3級の合格者数全国1位(大学等)にも大きく貢献した。



この度は、栄えある東洋大学優秀教育活動賞を頂き、誠に光栄に思います。受賞の対象となった「専門演習」(ゼミナール)は決して私一人の力で作ったものではなく、2014年4月の着任以来、私と共にゼミナールを作り上げてくれた卒業生と現役生たちの努力の結晶です。ぜひこの喜びをみんなで分かち合いたいと思います。そして、この受賞を励みにして、さらに素晴らしい教育プログラムになるように一層教育活動に邁進したいと思います。

受賞者からのコメント

5. Questions and discussion

- A) Catherine says to Heathcliff, "I'm not jealous of you."
"I'm jealous for you." (p. 99, l. 25-26)
What does she mean? What are differences between the former and the latter?
- B) Heathcliff says to Catherine, "If I imagined you really wished me to marry Isabella, I'd cut my throat!" (p. 100, l. 14-15)
How does he feel? How does he want Catherine to react to his approaches to Isabella?



「Integral English I / II (ADVANCED b)」における文学作品を活用した主体性を促す英語教育

生命科学部 生命科学科 准教授 江口 智子

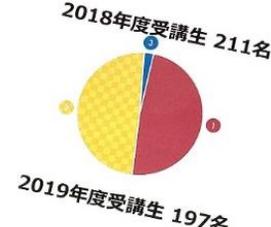
受賞授業・教育プログラム

英語の総合的な能力を高めるため、様々な教材を通じて学修する授業。学生は単に和訳をするだけでなく、日本語と英語で考える力を身につけるため、毎回のReading Log執筆、グループディスカッションでの質問提起をするなど自分の考えを言葉にする力を養う他、選択課題性の2回の小論文課題と学期末のプレゼンテーションのフィードバックを受けるなど双方向性が高い授業となっている。実際にTOEICスコアが上がった他、学生も総合的な英語能力の向上を実感しており、学生が社会の構成員として必要な教養を身につけ国際的に活躍できる人材養成という学科の教育目標の達成に高く貢献した。



私が所属している生命科学部では英語は主流科目ではないため、日の目を見ることはないと思っておりましたが、日々努力してきたことがこのような形で評価され、嬉しく思います。受賞授業において、実際に履修生のTOEICスコアが上がったことも評価されましたが、今後も実用面の他、学生の想像力・考察力・主体性・協調性なども伸ばせるような英語教育を目指したいと思います。

受賞者からのコメント



アルコールパッチテストの原理

アルコールパッチテスト

日	時間	会場
4月24日	13:00 ~ 16:30	2104 教室
4月25日	10:30 ~ 16:30	
4月26日	10:30 ~ 16:30	

アルコールパッチテストとは、遺伝的にアセトアルデヒド脱水酵素 (ALDH) 2型を持っていないので、アルコールを飲むと、体がアルコールを分解できず、体中に蓄積して、頭痛、吐き気、めまい、顔面潮紅、呼吸困難などの症状を引き起こすことがあります。このテストは、自分がアルコールを飲む際に、どのような症状が出るかを事前に知るための検査です。検査料金は2000円です。

「飲めない版」の体験とでた！
遺伝的にアセトアルデヒド脱水酵素 (ALDH) 2型を持っていないので、アルコールを飲むと、体がアルコールを分解できず、体中に蓄積して、頭痛、吐き気、めまい、顔面潮紅、呼吸困難などの症状を引き起こすことがあります。このテストは、自分がアルコールを飲む際に、どのような症状が出るかを事前に知るための検査です。検査料金は2000円です。



判定
アルコール聴能全国市民協会

「飲めない版」の体験とでた！
遺伝的にアセトアルデヒド脱水酵素 (ALDH) 2型を持っていないので、アルコールを飲むと、体がアルコールを分解できず、体中に蓄積して、頭痛、吐き気、めまい、顔面潮紅、呼吸困難などの症状を引き起こすことがあります。このテストは、自分がアルコールを飲む際に、どのような症状が出るかを事前に知るための検査です。検査料金は2000円です。



「人体の構造と機能」

食環境科学部 食環境科学科 准教授 高橋 珠実

受賞授業・教育プログラム

「ヒトの生命活動を支える体の構造や機能に関する基本的な知識を習得する」という明確な到達目標を達成するため、資料・新聞記事等を用いて、その日の内容に関連する身近な話題を取り上げ、記事の内容をまとめ、考察させて知識を深めていったり、体験を交えながら学ぶ授業。飲酒に関する内容を取り上げた回では、医務室イベントのアルコールパッチテスト受検を課し、その結果を授業内にresponで共有、自分自身の体験を通して体とその機能、そして健康について考えさせるなど、大規模授業においても学生個々が知識を得るだけでなく、自らの体験を学びにつなげる工夫がなされている。食環境科学科のカリキュラムの基礎となる、「食品素材が持つ機能とこれが人の健康維持に果たす役割」や「食品機能が人体に及ぼす影響」について深い学びを与えることで、学科の教育目標達成に多大なる貢献をした。



この度は東洋大学優秀教育活動賞にご推薦いただき、ありがとうございます。話題提供用資料集めをすることが日課となり、この科目の奥深さをどのように学生に伝えていか、工夫の模索に私自身、面白さを感じております。大人数授業のため、授業運営面での課題がたくさんありますが、一人一人の学生と向き合って話すよう語りかけ、学生とのやり取りも次の授業に生かしつつ、学生と共に授業を作っていく、そんな思いを持ちながら授業を進めています。学ぶ姿勢を変えていきつづける授業になるよう、これからも励んでいきたいと思ひます。

受賞者からのコメント



国際地域学研修(国際学部)、観光調査実習 I・II(国際観光学部)、海外研修I(理工学部) —学部を横断した連携による国内外のフィールド研修プログラムの実施—

国際学部 国際地域学科 准教授 志摩 憲寿
 国際観光学部 国際観光学科 教授 佐野 浩祥
 国際学部 国際地域学科 助教 柏崎 梢
 国際学部 国際地域学科 教授 久松 佳彰

理工学部 建築学科 准教授 岡本 和彦
 理工学部 都市環境デザイン学科 准教授 神山 藍
 理工学部 都市環境デザイン学科 助教 新田 将之
 国際学部 国際地域学科 教授 松丸 亮

受賞授業・教育プログラム

学部・学科・学年・キャンパス横断で行われた研修。「まちづくり」をテーマに、様々な学習経験を持つ学生が集い、事前事後学習を含め、情報と知恵を集め報告書作成に取り組んだ。イタリア中部地震の復興、埼玉県の人口減少地域の活性化など大きな課題に対し、マクロな視点の分析だけではなく、ミクロな現場の情報をくまなく集め提案を具体化するなど、学生が共助し成長するよう工夫されている。学生が各学科等の学びに生かせる知識や経験が顕著であったほか、学科等を横断した研修の準備、学習の接続などを教員有志で準備、達成、プログラム化した点においても多大な成果を挙げた。



何よりも高い評価を頂いたことに御礼申し上げます。また、共に取り組んだ学生一人一人と喜びを分かち合いたい。専門分野の近い教員による一連の研修は、学生にとっては学際的な視野を広げるという学修効果のみならず、教員自身の研鑽にも繋がっており、何よりその成果は現場での生き生きとした私たちの姿に見出せよう。今後は緒についたばかりの本取組を体系的な教育プログラムとして展開してゆきたい。なお、取組のきっかけは富安亮輔先生(ライフデザイン学部)にある。改めて謝意を表したい。

受賞者からのコメント



授業「日本語ⅡA,B」「文化遺産地域振興論」、
教育プログラム「日本人学生による留学生チューター制度」

国際観光学部 国際観光学科

教授 泰田 伊知朗

准教授 ポツゲンドルフ ローレンツ

教授 市田 せつ子

受賞授業・教育プログラム

来日したてで日本人学生との交流に消極的になりがちな留学生と日本人学生と積極的に交流を促し、日本語力、日本理解の向上を目指すプログラム。日本人学生からボランティアを募り、ペアとなって同じ授業を受講したりするほか、文京区を中心とした東京紹介のフェイスブックHPを作り、共に散策をしながら新たな観光資源を見つけ発信する。また、留学生のそれぞれの母語でマップを作成するなど、成果物そのものが、学内に留まらない国際交流を推進するものとなっているなど、学部のグローバル教育に多大な貢献をした。



国際観光学部の前身である国際観光学科は2009年度に緑豊かな板倉キャンパスから白山へ移転し、2017年度に国際観光学部として新たに出発しました。郊外ののどかなキャンパスと、移動の激しい都心のキャンパスでは留学生と日本人学生の交流も自ずと異なりますが、その距離を縮めたいと考え、色々と企画してきました。そのことを評価していただいて嬉しく存じます。今後も担当教員と学生で試行錯誤しながら最善の方法を探っていきたいと思います。

受賞者からのコメント

優秀教育活動賞とは？

東洋大学優秀教育活動賞は、2017年度に新設された制度です。本学で実施されている優れた授業や教育プログラムを表彰し讃えるとともに、FD活動等を通じて、優れた取組を全学に普及させるためにスタートしました。

2019年度の教育活動に対し、7組16名の先生方へ賞を授与することになりました。他の授業等の模範たり得る事例として、簡単ではありますが、本紙で紹介させていただきました。

東洋大学には優れた教育活動がまだまだ多くあると考えられます。この表彰制度が学内の素晴らしい取組に光を当てるきっかけとなることが期待されます。



矢口 悦子 学長
(選考委員会委員長)

